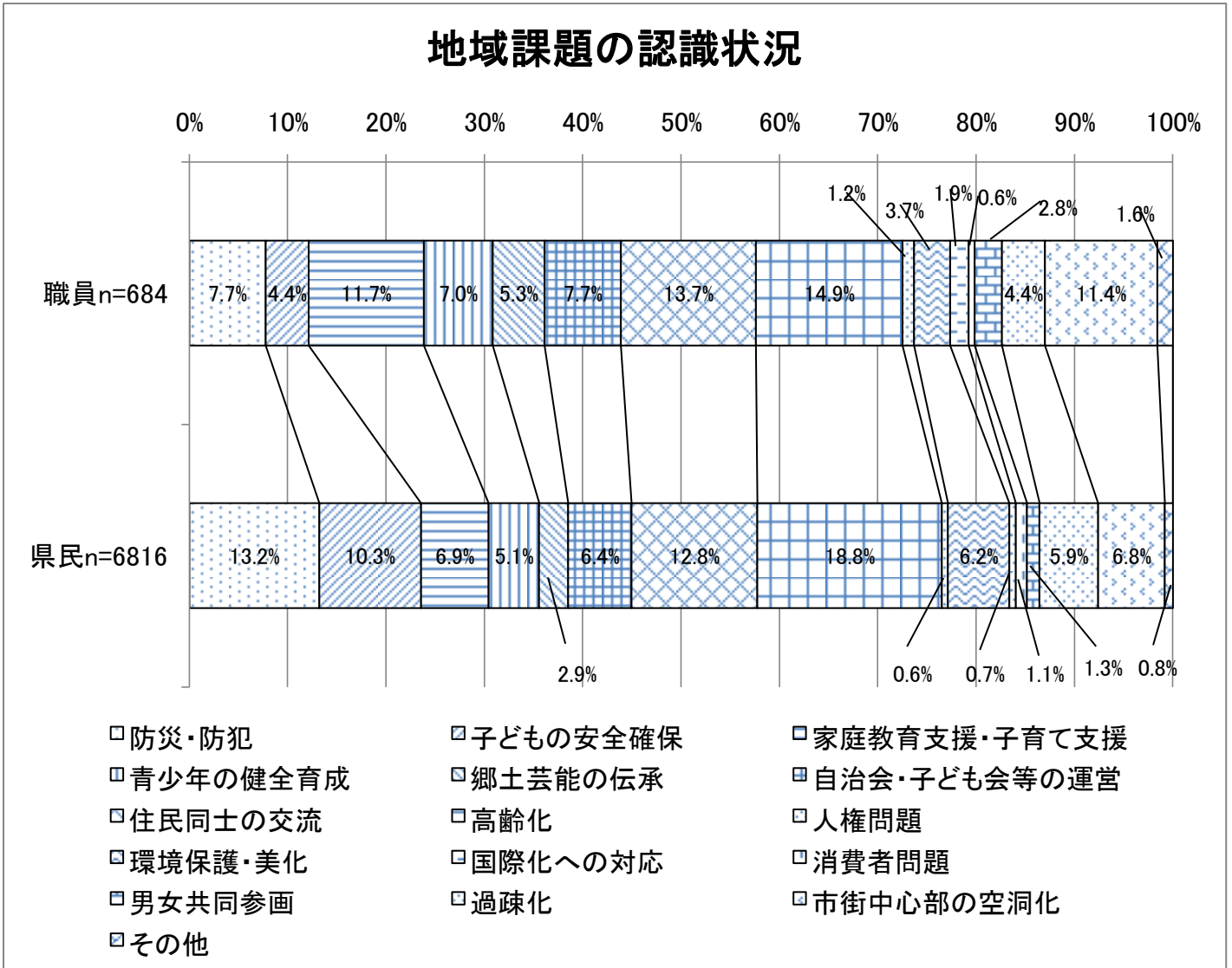


3 県民対象調査と職員対象調査の比較

(1) 地域課題の認識状況

【図 70】

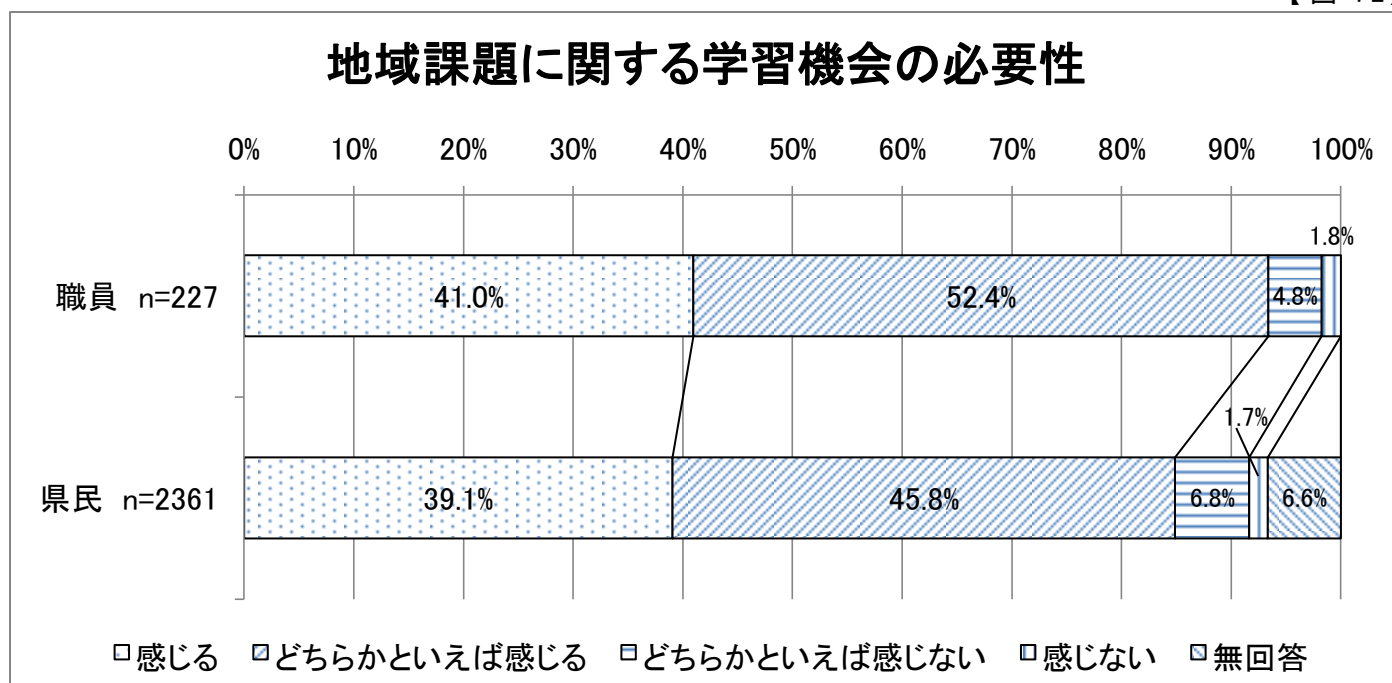


地域課題の認識状況（上位 10 項目）

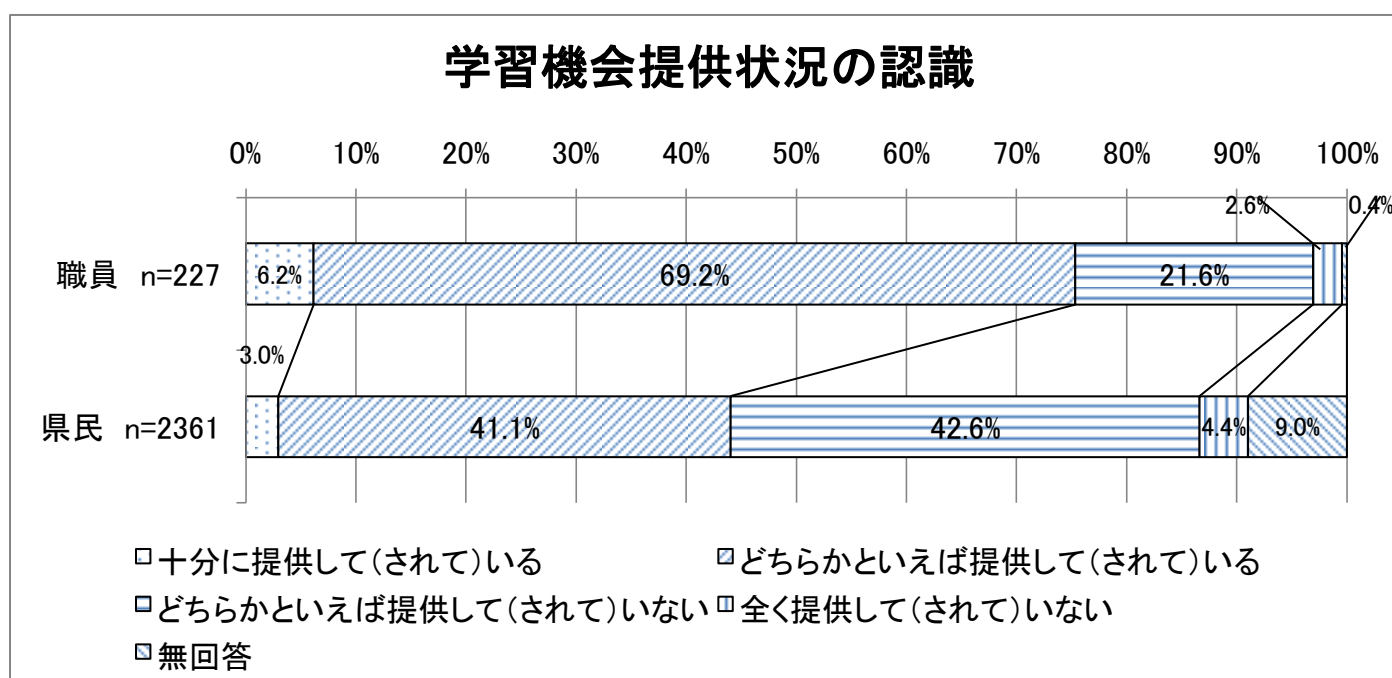
【表 71】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
職員 n=684	高 齢 化 14.9%	住 民 同 士 の 交 流 13.7%	家 庭 教 育 支 援 ・ 子 育 て 支 援 11.7%	市 街 中 心 部 の 空 洞 化 11.4%	防 災 ・ 防 犯 7.7%	自 治 会 ・ 子 ど も 会 等 の 運 営 7.7%	青 少 年 の 健 全 育 成 7.0%	郷 土 芸 能 の 伝 承 5.3%	子 ど も の 安 全 確 保 4.4%	過 疎 化 4.4%
県 民 n=6,816	高 齢 化 18.8%	防 災 ・ 防 犯 13.2%	住 民 同 士 の 交 流 12.8%	子 ど も の 安 全 確 保 10.3%	家 庭 教 育 支 援 ・ 子 育 て 支 援 6.9%	市 街 中 心 部 の 空 洞 化 6.8%	自 治 会 ・ 子 ど も 会 等 の 運 営 6.4%	環 境 保 護 ・ 美 化 6.2%	過 疎 化 5.9%	郷 土 芸 能 の 伝 承 5.1%

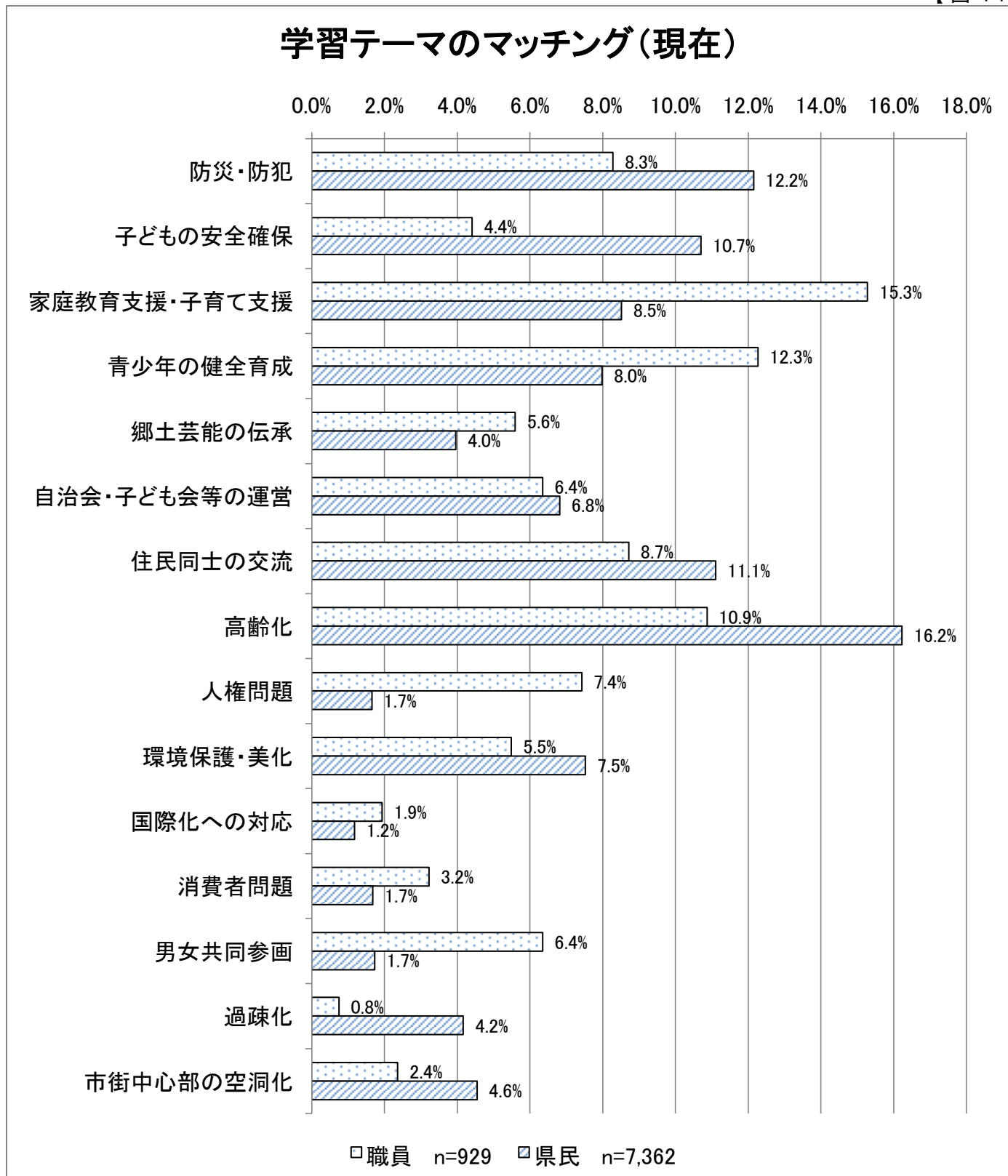
「高 齢 化」については、4 ポイント程度の開きが見られるものの、順位はともに最上位であり、県民と職員の認識は一致していると考えられる。一方、「防災・防犯」や「子どもの安全確保」については、県民の方が課題と捉える意識が強く、反対に、「市街中心部の空洞化」や「家庭教育・子育て支援」については職員の方が高いなど、職員と県民の間で課題の認識に差のある項目も見られる。



「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計すると、職員が 93.4%で県民は 84.9%と、ほとんどの職員・県民が地域課題に関する学習機会が必要であると考えていることがわかる。両者の比較では、職員の方が 10 ポイント近く上回り、地域課題に関する学習機会の必要性をより強く認識していることがうかがえる。

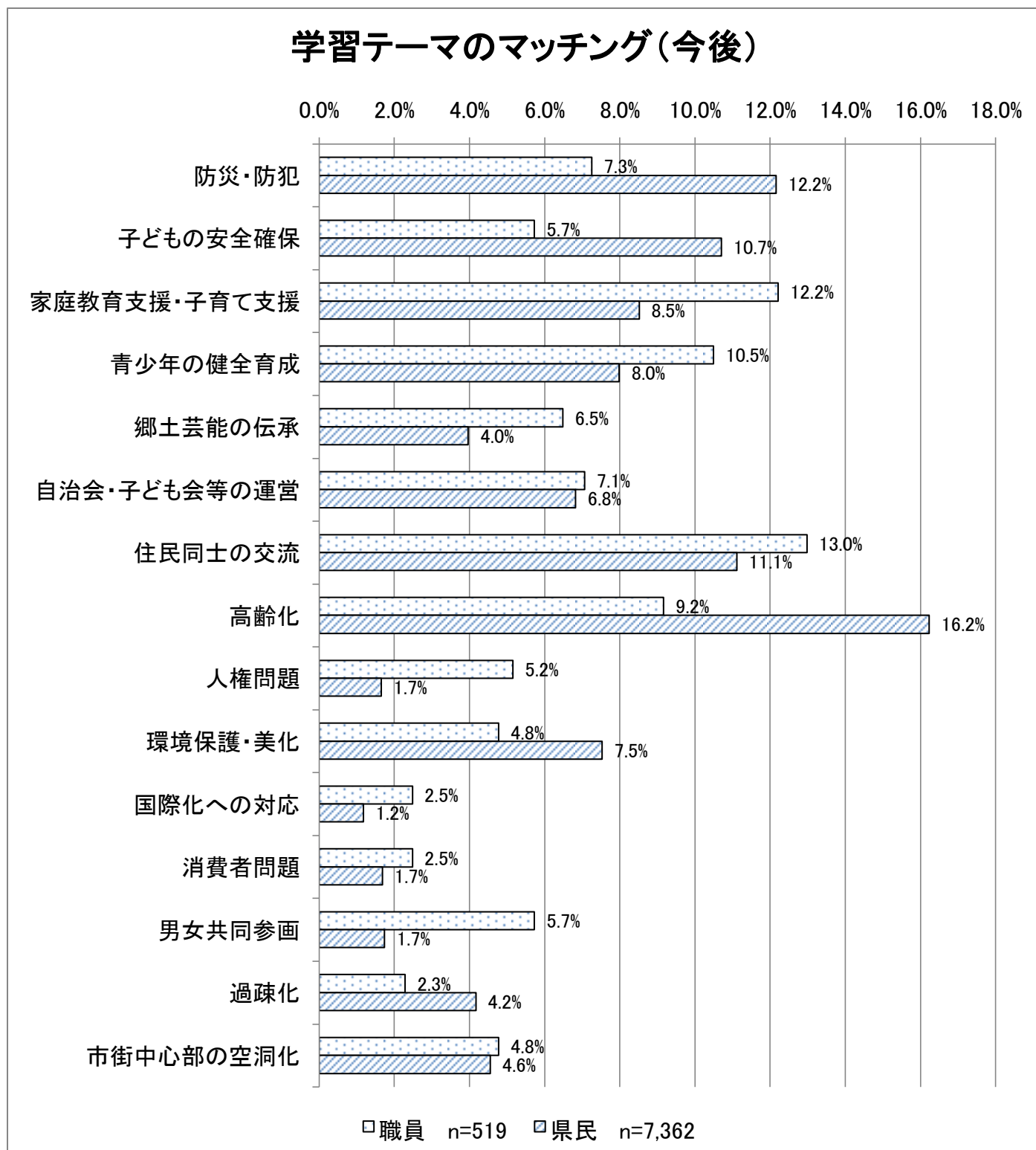


「十分に提供して(されて)いる」と「どちらかといえば提供して(されて)いる」との合計が、職員では 75%を上回るが、県民では半数に満たなかった。県民のニーズに見合うだけの学習機会が提供されていない可能性があり、職員のイメージほど県民は学習機会に充足を感じていないことが明らかとなった。



地域課題に関する学習機会の需要と供給のマッチングの状況について、県民が今後充実を図る必要があると回答したテーマと、現在提供されている学習テーマを総回答数に対する割合で比較した。5ポイント以上の開きがあるものを特徴的なものとして取り上げると、15項目のうち4項目が該当した。

供給に不足が感じられているのは「高齢化」と「子どもの安全確保」であり、供給が十分と考えられるのは「家庭教育支援・子育て支援」と「人権問題」であった。



県民が今後充実を図る必要があると回答したテーマと、職員が今後提供したいと考えている学習テーマについて総回答数に対する割合で比較した。需要と供給について、5ポイント以上の開きがあるのは15項目のうち2項目と、現在の状況より2項目減少することから、今後地域課題に関する学習機会のマッチング状況は改善すると考えられる。

しかし、その一方で県民のニーズが高い「高齢化」と「防災・防犯」では、その差が現状より「高齢化」で1.7ポイント、「防災・防犯」で1.0ポイント拡大しており、住民のニーズがさらに満たされない状況になることが懸念される。